

授業方法について独自に工夫していること 【人文社会科学系】

教員が教えるだけの一方的な授業ではなく、学生が互いに学びあう授業になるようにしている。とくに大学に入学したばかりの一年生の授業でもあるため、学生同士の交流のきっかけにもしたいという狙いもある。

言語に関して学生がこれまで考えてみたことがないような事柄を提示することによって、物事の多面的な捉え方の重要性を認識してもらいたいと考えている。

授業で扱う内容に関わる情報を予め準備する
学生の視点にあうように、授業展開する

・「深く思考する力」や「主体的に行動する力」をつけていけるように、担当者オリジナルの「あらまし読み」という手法を用いて、大学で必要とする読書教育からスタートさせました。平易な新書などから選書する体験を各自に行わせました。学内附属図書館は工事中でありましたが、初年次の半期10回で、受講生全員が、5冊以上の本をあらまし読みしました。
・学生の活動や交流を授業時間の2/3以上を当てました。毎時間、違った席に座り、違ったメンバーとペアになり、対話の相手を変え、伝える練習をしています。
・「人は集中して文字が書ける時間を20分程度持つ」という過去の授業体験から捻出した時間を「20分間集中ライティング」と名づけています。授業中に、レポートの一部分を書かせる練習を取り入れました。
・毎時間最後に、出席受講生に記入させている「紙のポートフォリオ」を用いて、毎時間の授業内容の確認や受講生自身の記録を振り返りつつ、10回を進めました。

できるだけ、学生達に習った中国語で自分の考えを表現することが出来るような練習を沢山させました。

継続して学習を続けられるように、1回ごとの授業の内容について検討し内容が多くなりすぎないようにつとめた。また課題をほぼ毎週出して授業外でも学習してもらえるようにした。

学生参加型にするために、リーディング演習では学生同士で内容を確認しあい、リスニング演習ではペアワークで内容を話し合い、そのうえで説明を加え、理解が深まるようにしています。

・学生同士ペアで、1分間程度で前回の授業内容の確認をさせてから授業に入ります。毎回おこなっているの
で、学生も各自確認する姿勢が身に付き、授業にスムーズに入っていけるようです。
・交流の時間を毎時間取り入れ、授業終了10分前に、授業の中で気づいたことや、他の学生から受けたアドバイスを次回どのように生かしていくのかを考えさせています。

教科書、補助教材などの選択に関して、言語学習の音声面での訓練を重視する立場から、最新のDVDもしくはCD付きのものにしている。学生が自主的にリスニングに多くの時間をさいてくれるよう、講義の最初にしお願している。それに加えて、自らが過去に欧米諸国(英語圏)に渡航した際入手した多様な資料を提示しながら、日本とは異なる文化面に注意を向けてもらうようにし、授業に新鮮味を持たせるよう心掛けている。

・学生が主体的に学習するよう、グループ発表や授業内容に関するコメントの提出を実施した。
・できるだけ幅広く他国の文化に興味をもってもらうために、視聴覚資料も多く用いた。
・講義は歴史や日本との関係を知ること、自己(自国)との関わりにおいて他国の文化を考えるということを意識した。

双方向的な授業の取り組みとして、毎回教科書の予習範囲から数名の生徒に自由に質問を出してもらい、教員が質問に答えるという形式で授業を実施した。

授業中常に教室の中を回り、理解できていなそうな学生に個別に指導する(机間授業)ことによって、きめの細かな語学教育が可能となった。語学授業においては学生とのコミュニケーションがもっとも大事なので、相手の了解を得た上で、できるだけ親しみを込めて名前を呼ぶことにしている。初級文法は忍耐が必要なので、教授者は根気よく繰り返し、同じことを伝えることが肝要なので、そのことに努めている。学生はその時は理解しているつもりになっているが、一知半解ということもあるので、何度も復習をして確かめるようにしている。

できるだけ学生が興味を持ちそうな教材を選ぶように努めている。また、授業が単調になるのを防ぐために、複数の教材を使用している。

できるだけ学生が興味を持ちそうな教材を選ぶように努めている。また、授業が単調になるのを防ぐために、複数の教材を使用している。

映画を素材にした教科書を用い、「文章の読解」と「英語の聞き取り」の両面を鍛えるような方向で指導をしている。また併せてベーシック・イングリッシュの理論に基づいた英語発話・作文の指導も、補足的にはあるが、指導している。

ベーシック・イングリッシュの理論をさらに日本人学習者向けに改善した独自の英語発話指導理論を用い、独自に編纂した教科書を使って指導している。

大学の授業の受け方、社会科(とくに歴史)の学び方、レポートの書き方、参考文献・資料の検索の仕方など、その方法や技能が身につくことに力点を置いた。授業中に学生が発言する場面を多くするように心がけた。実際に博物館に出向き、実物資料にふれることによって、社会科(とくに歴史)の見方が広がるように工夫した。

授業中の指示・説明言語をすべて英語で行っているわけではありませんが、内容理解等に重点を置いた活動では日本語で、そして英語を使うという技能中心の活動では英語で行うようにしています。そして、英語を1回の授業で少なくとも数度は発話するようにしていますし、ペアワーク・グループワーク等の活動も含めるようにしています。また、授業外での課題として、大学で使用可能なe-learningを用いています。

最近、アクティブラーニングの必要性が言われている。ぜひアクティブラーニングを取り入れたいが、そのためにはドイツで発行されたテキスト(たとえばMenschen など)を用いるのがベストである。しかし今年には日本で発行された従来型のテキストを用いたため、部分的にアクティブラーニングを導入した。プリントを配り、ペア練習やグループ練習を試みた。しかしクラスの人数が多いため、座席をコの字型に出来ず、どの程度効果があったかわからない。

テキストを使用して英語の文を解釈するが、そこから一歩踏み込んで関連のある記事を提示したり、テキストの内容に関する各自の意見を英語で書いてみたりペアワークで意見交換をしたりしている。

なるべく一人一人声を出してコミュニケーションを図れるようペア練習やグループ練習を取り入れた。とはいえ、それができない学生には、無理強い感のないよう配慮もした。

・英語を聞きとったり、発話したりすることに自信がない学生に対して、短時間で集中的に繰り返し聞いたり音読したりすることで、効果的に英語力を高めることを体験させ、習慣づけることを心掛けた。
・この授業を受講することによって、英語という言葉の習得をすすめるだけでなく、将来本当に英語の必要性を感じたときに役立つ学習方法も同時に教えた。

講義と演習(タスク)を混ぜながら行うが、講義の部分も学生に考えてもらえるように、発問を投げかけて、仲間と話し合い、解答を解説するもしくは、学生に答えてもらうアクティブラーニングを意識している。

初めてTOEICを受験する学生も多かったことから、受験に際して知っておくといふことを中心に解説した。特に、TOEIC独特の頻出単語や熟語を覚えるために、毎回、単語の確認チェックをしたり、2单元ごとに確認小テストを行った。

テキスト自体は難しくはないので、語彙力や口語表現を中心に指導した。毎回、与えられたタスクに向かって、パートナーと一緒に会話をしながら解決していくようなアクティビティを重視した。まずは英語をどんどん使ってみることに慣れ、学習した表現をまねてみる、最後に自分の言葉で伝えるというような段階的指導をしてきた。

毎回コメントシートを配布、回収し、次の授業時に、その受講者のコメントを載せたプリントを作成してやはり毎回配布し、教員と受講者、また受講者間のコミュニケーション促進をはかる。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【人文社会科学系】
課題の提出やレポートの内容、授業態度などを含めて、総合的に評価した。
レポートの場合、限られた字数の中で、与えられたテーマについてバランスよく例を挙げながら説明できているかどうかを重視している。
総合評価、授業参加度合い、出欠、学生たちによるグループ発表、テスト
<p>以下の①～④を合計して、成績を評価しました。</p> <p>①2017年度前半5回に渡った全体講義の授業の参加と感想用紙の提出の合計</p> <p>②読書シート(「あらまし読み」シート)の量的評価(7枚以上)と質的評価の合計</p> <p>③中間レポート(1冊の本を読んだのブックレビュー)の表現形式評価</p> <p>④最終レポート(2冊の本を読んだ比較レポート)の質的・量的評価</p>
シラバスに書いた通り、平日成績(40%)と期末テストの成績(60%)を合わせて評価しました。
各授業の最後にやっていただいた課題と、定期試験で評価した。
<p>予習および平常点(20%)と期末試験(80%)</p> <p>小テストおよび平常点(20%)と期末試験(80%)</p>
<p>平常点(提出物、授業の参加度、出席) 40%、第1回～第5回のミニレポートと授業時の集中ライティング 20%、最終レポート 40%</p> <p>を総合して評価しています。</p>
出席回数、小テストの結果、学期末試験のスコア、プレゼンテーションの際の受講生の英語の発音、イントネーション、表現力、授業への貢献度などを考慮しつつ総合的に判断した。一発勝負の試験だけで判断するのではなく、個々の学生を多面的に評価することを考えてのことである。
<p>成績評価の基準は初回の授業で学生に説明した通りである。</p> <p>出席点(20%)、グループ発表の評価(30%)、期末レポートの評価(50%)</p> <p>期末レポートの評価は、十分な資料収集、説得的な論旨に加えて「自国の文化との比較」の視点が踏まえられているかどうかを基準とした。</p>
<p>成績評価の基準は初回の授業で学生に説明した通りである。</p> <p>出席点(20%)、授業内での質問(20%)、期末レポートの評価(60%)</p> <p>期末レポートの評価は、教科書や授業内容等の理解を前提として、課題に対する自己の見解を説得的に論述できているかどうかを基準とした。</p>
定期試験による。学内の成績基準に準拠している。
2回の筆記試験、TOEICの成績および出席状況
3回の筆記試験および出席状況

基本的には、使用した教科書を完全に理解しているかどうか、また補足的に行っている英語発話・作文法の基礎的な理解が出来ているか、期末試験によって考查した。

主要12動詞のみを使う独自の英語発話法の基礎的な理論をしっかりと理解できているかを評価基準とし、期末試験による考查を行っている。

少人数(16名)の授業であったので、授業中の発言・討論への参加度(積極性と内容)や、課題(たとえば、博物館の実物資料の中から関心を見出し、情報収集する)への取り組みの内容から評価した。

出席(10%)、提出物(30%+20%)、定期試験(20%+20%)の合計点です。

後期試験(筆記テスト)を中心に成績をつけたが、これだけでは欠点で落ちる人が多く、小テストの成績も加味して、点数をつけた。望ましいのは、口頭試問を取り入れることであるが、クラスの数が多いため、断念せざるを得なかった。

定期試験の成績60%、小テスト(単語テスト)の成績20%、TOEICの成績10%、授業参加度10%で総合的に評価した。

実技テスト2回・ペーパーテスト1回の総合点が60点を上回る学生を基準に単位・成績決定を行った。話す・聞くなどメインに言語の4技能のどれか本人に合っているものを磨けば単位が取れるような仕組みにした。

成績は、シラバス掲載の通り、平常点(授業の参加度、提出ノート)20%、TOEIC点数20%、e-learning課題20%、授業内試験40%の合計点で、結果を出した。

クラスサイズが、コミュニケーションのクラスにしては多いので、試験を基本に、平常点が観察される学生に関しては、その点をプラスしました。

出席、授業参加度、小テスト6回(40%)、期末テスト(60%)
ただし、TOEICのテスト結果が合格ラインに満たなかった学生に対しては、大学の成績処理方法に従って成績を付けた。

最終試験:スピーキング(40%)、筆記小テスト2回(20%×2)、出席及び授業参加度(20%)

期末試験、時事問題についてのレポート、コメントシートに示された考察と授業参加の度合いの3項目により評価。配点は各々3分の1。

アンケート結果を受けて改善したいところ 【人文社会科学系】

授業の展開を学生に任せすぎて、私自身による説明や授業準備が不十分な面があった。授業に関する評価より教員に対する評価が低い傾向にあるのはおそらくこのためであり、この点はきちんと反省し、改善につなげたい。

また全体講義とのつながりが不明であるとの記述もあったが、これは指摘の通りで、改善しなければならない点である。これまでなかった全体講義が新たに導入された最初の年度ということもあり、授業の計画や準備の段階でそこまで注意が及んでいなかった。全体講義の内容を意識して演習の授業も行うという、あたり前の点を改善しなければならない。

毎回でなくても、授業の最後に振り返りのレポートを書かせることを行ってみたい。

学生たちが、自己表現につなげられるような工夫をくわえていきたい。

・2017年度授業内に教員から説明を行いました。性差で着席を変えることは一切取りやめます。男女別の席替えは、どの席替えよりも効果を生んでいましたが、「性的マイノリティーへの配慮」が非常に難しいという事情からです。

・教員がわかりやすく話すために、内容を精査し、繰り返して話すぐらいの時間的な余裕を作りたいと考えています。

・中間レポートの提出後、1人13分程度、クラス全体で8時間程度の添削コメントを教員が記入し、一人ずつ返却しました。最終回の授業時間に、学生に「中間レポート後の添削」に関して尋ねたところ、受講生全員の約40%からは感謝されましたが、約60%から、添削の軽減、方法の改良、添削しても読まないなどの意見をもらいました。長年の間、初年次教育の「レポート指導」では、教員の添削について、問題になっています。そこで、内容面と表現面に分けて、効果的な指導方法の開発を行っていきたいと考えています。

授業内容はちょうどよいということであったが、授業時間外での学習時間が少ないようなので、さらに学習していただけるよう課題の内容を検討したい。

学生自身で予習復習がきちんとできていれば、授業内でしっかり演習できると思いますが、学生全体に行き渡るようにはっきりと説明してゆきたいと思います。

これからも分かりやすい説明を心掛け、学生が意欲的に取り組めるように努めたいと思っております。

すべての受講生を万遍なく満足させることは出来ないかもしれないが、英語の習得で自らが苦労してきている経験を踏まえて常に受講生の視点に立つように努め、授業内容にメリハリを持たせるよういろいろと工夫するよう努めたい。また、効果的な授業を展開できるよう学生とのコミュニケーションをさらに密にしながら、様々なアイデアを取り入れたいと考えている。

・音楽や美術等は自分の専門外ということもあって、講義も視聴覚資料に頼りがちになってしまいがちだが、例えば「現代史と音楽・美術」といった別の観点から自分でも語りうる分野があるのではないかと考えている。

・限られた授業時間数のなかでは、ロシアの歴史・地理の概説、ロシア文学や舞台芸術の紹介に終始してしまっているが、時間配分を工夫して北方領土などの現代政治の課題などについても授業で扱っていききたい。

・学生から出される質問に対して十分に回答できなかったところが未だあり、その点は今後、自分自身も研鑽を積んでいきたいと思っている。

・教科書の内容に準拠しながら、日々新たに生じている憲法問題もその都度、学生に紹介する取り組みをして、もっと身近な問題として憲法を考えてもらえるような工夫をしていきたい。

概ね妥当な結果で、授業の創意工夫の結果が表れていて、よしとしたい。ただ、学生の予習復習の時間を作る出す方法を考えなければならないと思っている。

教科書の難易度は適切であったようであるが、内容が必ずしも学生の希望と一致していなかったかもしれないので、以後気をつけたい。また、学生が理解できているかどうかを確認しながら授業を進めるよう、もう少し努力すべきかもしれない。

教科書の難易度は適切であったようであるが、内容が学生の希望に一致しているかどうか、個人によって、あるいは、教育単位によって大きく異なるため、良し悪しの判断が難しい。改善のためには、学生とのコミュニケーションをもっと大切にした方がよいかもしれない。

週当たりの学習時間の項目で、1時間未満と回答した学生が40%と一番多かったのが反省点。せめて1～2時間と回答する学生が多数を占めるよう、今後、指導法を改善したい。

自由回答によると「英作文に使えるようになった」「前回、別な先生の英語コミュニケーションが苦痛で仕方なく今回リカバリーで受けましたが、すごく学びになりました」などの回答が寄せられ、一応、高評価を得ているようである。

反省点として、「週当たりの学習時間」について1時間未満と回答している学生が半分ほど居たので、もう少し予習・復習に時間を掛けさせるような方向で、授業改善できればと考えている。

授業では、とくに、レポートの書き方、参考文献・資料の検索の仕方や情報収集などの方法や技能が身につくことに力点を置いたにもかかわらず、問2・問3の回答において、③～⑤のマイナス回答が、問2では全体の43.8%、問3では全体の50%を占めたことに反省している。課題に対して自らが問題点を見出し、アプローチし、発言する・行動するということが達成できるように、今後、より留意して授業を構築する。

色々な授業の仕方を試しながら、教え方により幅のある授業を行えるようにできればと思います。

意外に的を得たアンケート結果が出ているように思う。授業の難易度は「難しい」と回答した学生が多かったが、来年度はもう少し簡単な教科書を選び、丁寧な授業を心がけたいと思う。そしてアクティブラーニングの要素を多く取り入れ、楽しく語学が身につく授業をしたい。問8の「教員の話し方」については、今回も高い評価を得た。意識して大きな声を出すように心がけた成果が出ていると思われる。自ら発信できる語学が身につくよう、さまざまな改善を試みたいと思っている。

英語1の授業ではあったが、英作文や英語でのコミュニケーション活動もしたいという声があった。英語の授業は単なる講義ではなく、学生の皆さんにも発言してもらって成り立っているもので、そのなかに、より多くのアクティブラーニングを盛り込んで、多くの皆さんの参加を求める時間を組み込みたいと思う。

問1で高い回答率だったのに問9ではそこまで行かないクラスもあったので、この矛盾点が、教師の問題なのか学生本人の問題なのかよく見極め今後は、さらによく説明していくつもりである。

TOEICを重視した講義内容のため、TOEIC受験を義務付けられている学生は、ある程度の満足感を持って受け止めているように思う。しかし、自主的な問題解決や学生同士の深めあいという点での刺激を与えることは難しく、教科書以外のニュース教材を足すと、もう少し幅広い興味をひくのではないかと考える。

英語が専攻科目に含まれる専攻のクラスと全くの教養科目のクラスを教えました。英語が専攻科目のクラスには授業内容が合っていたようですが、全くの教養クラスにはやや難しかったと思われますので、運営方法を検討したいと思っています。

学生のもとも持っている英語力やモチベーションが大きく異なるため、全員に対応した授業方法を模索しながらやってきた。人数も多いことから、なかなか個人の質問に対応できなかったので、今後はもう少し学生とインタラクションを取りながら進めていきたい。

英語が苦手な学生が多かったため、まずは英語を話すことに慣れてほしいという願いから、なるべく明るく楽しい授業を心掛けた。既知の内容と新たに学んだ内容の両方をフルに生かせるような活動内容を考え、学生全員が主体的に参加できるようにしていきたい。

シラバスで予定した内容と並行し時事問題を扱いましたが、この期の時事問題は扱いが難しく、時間をかけ説明しても理解されにくく、また、結果として、特に学期の終盤には早口で急いだ内容も多かったと反省しています。トピックスの選定にさらに注意していきたいと思います。